



# 運動遊びを通して 保幼小連携の 取組

どんな  
取組?

## 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指した 運動遊びを活用した連携の取組

小学校に隣接する百田保育所では、  
小学校の20分休みの時間に、幼児と児童が  
共に遊ぶ、交流活動を通した連携を始めました。

※「転がしドッジボール」

### 保幼小連携のポイント

#### 交流活動の明確な狙いをもち、教員と保育者が一緒に計画を立てる

保幼小連携は、幼児と児童の交流だけでなく、教職員同士の交流により、幼児・児童の実態の把握や指導方法の改善に役立つというメリットがあります。交流活動を行うときには、定期的な打ち合わせや振り返り、保育・授業参観などを活用して、互いの教育について理解を深め、幼児・児童双方に意味のある取組となるよう、共に計画を立てることが大切です。

#### 小学校教育とのつながりを意識する

幼児期は遊びや日常生活の中で多様な動きを自然に身に付ける時期です。このことを基盤に小学校は、将来の体力向上につながる基本的な動きを総合的に身に付ける時期です。こうした円滑な接続ができるように、小学校教育への見通しをもち、一貫性のある取組をしていきましょう。



### 保幼小連携の取組の流れ(例)

#### 1 準備

保育参観や授業参観、発表会などの行事などを利用し、お互いの指導方法や指導目標について、理解を深めておきましょう。

#### 2 教職員で打合せ

「どの時間で行うか」「どんな内容で実施するか」など、話し合いましょう。

##### ●時間の例

登園前の時間、小学校の休み時間、運動会など。

##### ●内容の例

ペアになって行う遊び、鬼ごっこなどの集団遊び、伝承遊びやリズム遊びなど。

#### 3 連携での目標を決める

##### 【子供たちの交流において】

**保育施設側の狙い**：小学校生活の体験、就学前の不安解消、挑戦意欲を高める、お兄さんお姉さんのようにいろいろな動きができるようになりたいという気持ちの育成。  
**小学校側の狙い**：児童が幼児に伝わるような言葉遣いや関わり方を工夫したり、思いやりの心を育んだり、自分の成長に気付いたりする。

##### 【教職員の交流において】

**保育施設側の狙い**：教育内容や指導方法について相互理解を深めることで、小学校への接続に向けた指導方法の改善ができる。

**小学校側の狙い**：就学前の様子や、保育施設側からの情報を得ることで、その児童にあった細やかな指導ができる。

#### 4 実践

室内や户外など複数の場所で、年長児と小学校1年生、年中児と小学校6年生など、複数のパターンで実施できると良い。

#### 5 振り返り



#### 子供たちも心を広げて遊べるようになった

・小学校で児童と遊んだ経験から、小学校へのわくわく感、期待を膨らませることができます。あのお兄ちゃんやお姉ちゃんがいるから、学校は楽しいんだという安心感がありました。遊びを通して、兄弟や姉妹、保護者との連携も進んでいます。

#### 異年齢での遊びの時間から子供たちの成長が見られる

・南アルプス市では子供の心と体の両面からサポートを行い、子供ごとにカルテを作成しています。また情報共有を積極的に行い、保育施設と小学校で連携し「地域で共に育てる」姿勢で子供たちの健やかな育ちを支援しています。

#### 南アルプス市立白根百田小学校（山梨県）

幼児数：382名 職員数：26名（平成28年1月28日現在）

果樹園の広がる地区、恵まれた自然環境のなか、師弟同行・協働の心構えで日々の教育活動に取り組んでる。



#### 南アルプス市立百田保育所（山梨県）

幼児数：162名 職員数：22名（平成28年1月28日現在）

子供自身が好きな遊びを見つけ、チャレンジできるように、遊びの環境の工夫を行っている。

